



最高裁秘書第3636号

平成29年8月24日

林弘法律事務所

弁護士 山中 理 司 様

情報公開・個人情報保護審査委員会

委員長 高 橋 滋

理由説明書の写しについて（送付）

下記の諮問について、最高裁判所から当委員会に提出された理由説明書の写しを別添のとおり送付します。

記

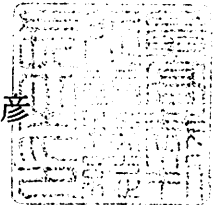
諮問番号 平成29年度（最情）諮問第50号

（担当） 秘書課文書開示第一係 電話03-3264-8330 （直通）

平成29年8月22日

情報公開・個人情報保護審査委員会 御中

最高裁判所事務総長 今 崎 幸 彦



理由説明書

下記1の諮問について、下記2のとおり理由を説明します。

記

1 諮問日等

(1) 諮問日

8月22日

(2) 諮問の要旨

苦情申出人は、最高裁判所がした不開示の判断に対し、本件対象文書が本当に存在しないかどうか不明であるから、苦情の申出をする旨主張しているが、当該判断は相当であるとする。

2 理由

(1) 開示申出の内容

第69期司法修習生の事前課題に関する模範答案、参考答案その他司法研修所教官室が作成した答案

(2) 原判断機関としての最高裁判所の判断内容

最高裁判所は、(1)の開示の申出に対し、2月2日付けで不開示の判断（以下「原判断」という。）を行った。

(3) 最高裁判所の考え方及びその理由

ア 本件申出に係る文書は、作成又は取得していない。

司法修習は、法曹に共通して必要とされる法的問題の解決のための基本的

な視点や考え方を学ばせることを目的としており、正解を重視しているものではなく、事前課題について、模範答案、参考答案等は作成していない。

イ よって、申出に係る文書を不開示とした原判断は相当である。